

2025年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	11 建築積算と施工技術	項 目	11.1 近代建築における構造の変遷	細 目	正答肢	4								
<p>問題 I - 1 建築基準法で規定されている構造種別の次の記述うち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【 出 典 】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 80%;">1 P306 11.1</td> <td style="width: 20%; text-align: right;">28行</td> </tr> <tr> <td>2 P306 11.1</td> <td style="text-align: right;">26行</td> </tr> <tr> <td>3 P306 11.1</td> <td style="text-align: right;">27行</td> </tr> <tr> <td>4 P309 11.2 表11.1</td> <td></td> </tr> </table>		1 P306 11.1	28行	2 P306 11.1	26行	3 P306 11.1	27行	4 P309 11.2 表11.1	
1 P306 11.1	28行													
2 P306 11.1	26行													
3 P306 11.1	27行													
4 P309 11.2 表11.1														
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 無筋コンクリート造 2 組積造 3 補強コンクリートブロック造 4 ラーメン構造 					<p>【 解 説 】</p> <p style="padding-left: 20px;">ラーメン構造は構造形式（架構形式）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記載通り 2. 記載通り 3. 記載通り 									

2025年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	11 建築積算と施工技術	項 目	11.2 構法と工法	細 目	正答肢	2								
<p>問題 I-2 作業時間を短縮するために開発された工法として、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">1 P310 11.2.1 (3)</td> <td style="width: 40%; text-align: right;">30行</td> </tr> <tr> <td>2 P310 11.2.1 (3)</td> <td style="text-align: right;">31行</td> </tr> <tr> <td>3 P310 11.2.1 (3)</td> <td style="text-align: right;">30行</td> </tr> <tr> <td>4 P310 11.2.1 (3)</td> <td style="text-align: right;">31行</td> </tr> </table>		1 P310 11.2.1 (3)	30行	2 P310 11.2.1 (3)	31行	3 P310 11.2.1 (3)	30行	4 P310 11.2.1 (3)	31行
1 P310 11.2.1 (3)	30行													
2 P310 11.2.1 (3)	31行													
3 P310 11.2.1 (3)	30行													
4 P310 11.2.1 (3)	31行													
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 構造部材のプレファブ化（プレキャストコンクリート） 2 内装材料の湿式化 3 外壁のプレファブ化（カーテンウォール） 4 高性能の仮設機材 					<p>【解説】</p> <p style="text-align: center;">内装材料の乾式化が該当</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記載通り 3. 記載通り 4. 記載通り 									

2025年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	11 建築積算と施工技術	項 目	11.2 構法と工法	細 目	正答肢	2
<p>問題 I-3 RC造の構造形式の特性に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P309 11.2 表11.1 2 P309 11.2 表11.1 3 P309 11.2 表11.1 4 P309 11.2 表11.1</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 コンクリートのひび割れ、中性化による鉄筋の発錆がある。</p> <p>2 現場加工が少なく工期も短い。</p> <p>3 一般的には耐火被覆は不要である。</p> <p>4 せん断破壊時に脆い。</p>					<p>【解説】</p> <p>現場加工がほとんどで多くの人員が必要で工期も長い。 コンクリートは強度発現まで時間がかかり、養生が必要。</p> <p>1. 記載通り</p> <p>3. 記載通り</p> <p>4. 記載通り</p>	

2025年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	11 建築積算と施工技術	項 目	11.3 標準的な施工プロセス	細 目	正答肢	4
<p>問題 I - 4 山留め壁の種類として、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P317 11.3.4 24行 2 P317 11.3.4 24行 3 P317 11.3.4 24行 4 P335 11.4.3 (1) 表11.4</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 SMW（ソイル柱列）</p> <p>2 シートパイル</p> <p>3 親杭横矢板</p> <p>4 粘性壁</p>					<p>【解説】</p> <p>粘性壁は制振装置</p> <p>1. 記載通り</p> <p>2. 記載通り</p> <p>3. 記載通り</p>	

2025年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	11 建築積算と施工技術	項 目	11.4 特殊構法・新技術	細 目	正答肢	1
<p>問題 I - 5 免震建築物に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P337 11.4.3 (5) 表11.5 2 P337 11.4.3 (5) 表11.5 3 P337 11.4.3 (5) 表11.5 4 P337 11.4.3 (5) 表11.5</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 中間階免震には免震層を設ける場合と、中間階の柱脚部に免震部材を設置する場合がある。</p> <p>2 中間階免震では基礎下に免震層を設けないことにより、地下の掘削深さを浅くできる。</p> <p>3 基礎免震では建築物の最下層と基礎の間に免震層を設け、そこに免震部材を設置する。</p> <p>4 基礎免震では建築物と外周部の境界に免震クリアランスを確保する必要がある。</p>					<p>【解説】</p> <p>中間階に免震部材を設置する。免震には免震層を設ける場合と、中間階の柱頭部（もしくは柱中央）に免震部材を設置する場合もある。</p> <p>2. 記載通り</p> <p>3. 記載通り</p> <p>4. 記載通り</p>	

2025年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	11 建築積算と施工技術	項 目	11.3 標準的な施工プロセス	細 目	正答肢	4								
<p>問題 I-6 工程表に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">1 P311 11.3.1 (1)</td> <td style="width: 40%; text-align: right;">12行</td> </tr> <tr> <td>2 P311 11.3.1 (1)</td> <td style="text-align: right;">10行</td> </tr> <tr> <td>3 P311 11.3.1 (4)</td> <td style="text-align: right;">37行</td> </tr> <tr> <td>4 P311 11.3.1 (3)</td> <td style="text-align: right;">35行</td> </tr> </table>		1 P311 11.3.1 (1)	12行	2 P311 11.3.1 (1)	10行	3 P311 11.3.1 (4)	37行	4 P311 11.3.1 (3)	35行
1 P311 11.3.1 (1)	12行													
2 P311 11.3.1 (1)	10行													
3 P311 11.3.1 (4)	37行													
4 P311 11.3.1 (3)	35行													
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 工程計画にしたがい施工手順、期間、他の関連個別工事との関係などを示したものである。 2 一般的にバーチャート工程表、あるいはネットワーク工程表が使用される。 3 工程表上に出来高を表すものとしてS字曲線がある。 4 クリティカルパスとは最初の工事から最後の工事の終了までに至る最短の経路を指す。 					<p>【解説】</p> <p>クリティカルパスとは最初の工事から最後の工事の終了までに至る最長の経路を指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記載通り 2. 記載通り 3. 記載通り 									

2025年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	1 建築積算とは	項 目	1.4 建築積算の領域活動	細 目	正答肢	1																
<p>問題 I-7 建築積算の領域活動に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 5%;">1 P5</td> <td style="width: 10%;">1.4</td> <td style="width: 75%;"></td> <td style="width: 10%; text-align: right;">17行</td> </tr> <tr> <td>2 P5</td> <td>1.4</td> <td></td> <td style="text-align: right;">4行</td> </tr> <tr> <td>3 P5</td> <td>1.4</td> <td></td> <td style="text-align: right;">1行</td> </tr> <tr> <td>4 P5</td> <td>1.4</td> <td></td> <td style="text-align: right;">14行</td> </tr> </table>		1 P5	1.4		17行	2 P5	1.4		4行	3 P5	1.4		1行	4 P5	1.4		14行
1 P5	1.4		17行																			
2 P5	1.4		4行																			
3 P5	1.4		1行																			
4 P5	1.4		14行																			
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 建築積算は、常に現状から抜け出ることなく、活動領域を維持することが求められる。 2 建築積算の社会性は、建設コストの公平性、妥当性、透明性などを担保することである。 3 建設産業を取り巻く環境の変化に対応するため、経営の基礎を支える建築積算の重要性が増している。 4 建築コストの捉え方などの発展により、建築積算を必要不可欠な業務とする活動領域が誕生してくる。 					<p>【解説】</p> <p>建築積算は、常に新しい観点から活動領域を発想することが求められる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 記載通り。 3. 記載通り。 4. 記載通り。 																	

2025年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	2 建設産業について	項 目	2.3 建築生産プロセスとコストマネジメント	細 目	正答肢	2												
<p>問題 I-8 建築プロセスの主要局面で発生するコストについての次の組合せのうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 10%;">1 P17</td> <td style="width: 50%;">2.3.2</td> <td style="width: 40%; text-align: right;">11行</td> </tr> <tr> <td>2 P17</td> <td>2.3.2</td> <td style="text-align: right;">13行、14行</td> </tr> <tr> <td>3 P17</td> <td>2.3.2</td> <td style="text-align: right;">15行</td> </tr> <tr> <td>4 P17</td> <td>2.3.2</td> <td style="text-align: right;">17行</td> </tr> </table>		1 P17	2.3.2	11行	2 P17	2.3.2	13行、14行	3 P17	2.3.2	15行	4 P17	2.3.2	17行
1 P17	2.3.2	11行																
2 P17	2.3.2	13行、14行																
3 P17	2.3.2	15行																
4 P17	2.3.2	17行																
<p>【解答肢】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 10%;">1 企画段階</td> <td style="width: 10%;">—</td> <td style="width: 80%;">調査費</td> </tr> <tr> <td>2 施工段階</td> <td>—</td> <td>委託費</td> </tr> <tr> <td>3 運用段階</td> <td>—</td> <td>運用費</td> </tr> <tr> <td>4 維持保全段階</td> <td>—</td> <td>改修費</td> </tr> </table>					1 企画段階	—	調査費	2 施工段階	—	委託費	3 運用段階	—	運用費	4 維持保全段階	—	改修費	<p>【解説】</p> <p>委託費は、施工段階ではなく、入札段階で発生するコストである。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>	
1 企画段階	—	調査費																
2 施工段階	—	委託費																
3 運用段階	—	運用費																
4 維持保全段階	—	改修費																

2025年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	3 工事の発注・契約	項 目	3.1 設計者と施工者の選定方式 3.2 多様な発注方式	細 目	正答肢	4
<p>問題 I-9 工事の発注方式に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P25 3.1.4 37行 2 P27 3.2.1 36行 3 P29 3.2.2 4行 4 P25 3.1.3 2), 3) 3行、17行</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 デザインビルド方式とは、設計と施工の契約を「同一の契約」でおこなう方式である。</p> <p>2 PFI方式とは、公共施設などの建設、維持管理および運営などを民間の資金、経営能力および技術能力を活用する方式である。</p> <p>3 ECI方式とは、設計段階から施工者がプロジェクトに参画し、施工者の持つ様々なノウハウを取り入れ、設計者が実施設計をおこなう方式である。</p> <p>4 コストオン方式とは、工事をいくつかの工種に分割して、別々に施工者と請負契約を結ぶ方式であり、公共工事では最も一般的な方式である。</p>					<p>【解説】</p> <p>肢の内容は、コストオン方式ではなく、専門工事業者への分離発注方式に関する記述である。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p>	

2025年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	4 設計図書	項 目	4.2 設計図書の優先順位	細 目	正答肢	2
<p>問題 I-10 公共建築工事標準仕様書において、設計図書の優先順位を左から高い順番で並べた次の記述のうち、最も適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P42 4.2 2 P42 4.2 3 P42 4.2 4 P42 4.2</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 質問回答書＞現場説明書＞特記仕様書＞標準仕様書＞設計図</p> <p>2 質問回答書＞現場説明書＞特記仕様書＞設計図＞標準仕様書</p> <p>3 質問回答書＞特記仕様書＞標準仕様書＞設計図＞現場説明書</p> <p>4 質問回答書＞特記仕様書＞設計図＞現場説明書＞標準仕様書</p>					<p>【解説】</p> <p>質問回答書を最優先にする。優先順位は以下の通り。1)質問回答書 2)現場説明書(見積要項書) 3)特記仕様書 4)設計図 5)標準仕様書(または共通仕様書)</p>	

2025年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	6 建築積算業務の実際	項 目	6.1 建築積算業務の流れ	細 目	正答肢	3
<p>問題 I-11 建築積算業務の流れに関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P56 6.1 21行 2 P56 6.1 21行 3 P56 6.1 22行 4 P56 6.1 24行</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 建築積算業務は設計図書を受け取った段階から始まる。</p> <p>2 はじめに、積算要領や積算範囲などを確認した後に作業分担をおこなう。</p> <p>3 内訳書を作成後、仮設、躯体、仕上、設備等の数量算出をおこなう。</p> <p>4 直接工事費を算出した後に共通仮設費、現場管理費、一般管理費等の算出をおこない、工事価格を決定する。</p>					<p>【解説】</p> <p>仮設、躯体、仕上、設備等の数量算出をおこなう。その後、各数量の集計をおこなってから内訳書を作成する。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>	

2025年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	6 建築積算業務の実際	項 目	6.16 内訳書作成	細 目	正答肢	4
<p>問題 I-12 部分別内訳書式の特徴に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P219 6.16.2 (2) 14行 2 P219 6.16.2 (2) 16行 3 P219 6.16.2 (2) 15行 4 P219 6.16.2 (2) 9行</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 部分別に価格把握ができる書式である。</p> <p>2 改修工事などに利用できる書式である。</p> <p>3 概算時の書式として使いやすい書式である。</p> <p>4 工事の施工プロセスに整合した科目順序である。</p>					<p>【解説】</p> <p>「工事の施工プロセスに整合した科目順序である」は、工種別内訳書の特徴である。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p>	

2025年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	6 建築積算業務の実際	項 目	6.17 値入業務	細 目	正答肢	2
<p>問題 I-13 値入業務に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P223 6.17.1 4～5行 2 P223 6.17.2 (2) ① 41～42行 3 P224 6.17.2 (2) ② 2～3行 4 P225 6.17.3 (2) 31～33行</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 刊行物に掲載されている単価は、実際の取引価格を調査の上掲載されているが、一部にはメーカーなどが公表しているカタログ単価（公表価格）も掲載されている。</p> <p>2 生コンは、地域によって単価の差異が大きい場合があるので、まぎらわしい場合は住所だけで判断し、生コン協組に地域を確認する必要はない。</p> <p>3 高炉セメントは、大規模な基礎工事や土木工事で使用されるが割増・割引額があるので注意する。</p> <p>4 メーカー見積の単価転記チェックや見積対象項目の合計金額を単価採用率で割り戻して見積合計金額と合致しているか確認する。</p>					<p>【解説】</p> <p>生コンは地域単価の差異が大きい場合があるので、まぎらわしい場合は住所だけで判断せず、生コン協組に地域を確認する必要がある。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>	

2025年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	6 建築積算業務の実際	項 目	6.18 概算	細 目	正答肢	4
<p>問題 I-14 基本計画段階の概算に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P236 6.18.2 (1) ① 5～6行 2 P236 6.18.2 (1) ② 15～18行 3 P236 6.18.2 (3) 42行 4 P237 6.18.2 (3) 3行～6行</p>	
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 事業計画の全体予算に合致しているか確認することや、各区分において予算配分が適切か、また各グレードと予算とのバランスを確認する。 2 コスト要因のほとんどが基本計画段階で決まってくるため、プロジェクトの成否を左右する一番重要な段階である。 3 坪単価や過去の事例からだけでは、精度や以降のコストコントロールにつながらないなどの問題が生じる。 4 限られた情報から概算をおこなうので、外壁数量や用途区分ごとの内部床面積の算出など、過去の数量歩掛りから算出することが多い。 					<p>【解説】</p> <p>躯体数量など過去の数量歩掛りから算出する方法もあるが、他の外壁数量などは具体的な数量の積上げに単価を掛けて算出する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記載通り。 2. 記載通り。 3. 記載通り。 	

2025年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	6 建築積算業務の実際	項 目	6.18 概算	細 目	正答肢	1
<p>問題 I-15 基本計画段階における躯体関係の概算手法に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P237 6.18.2 (3) 主な算出手法の例 18行 2 P237 6.18.2 (3) 主な算出手法の例 22～23行 3 P237 6.18.2 (3) 主な算出手法の例 25～26行 4 P237 6.18.2 (3) 主な算出手法の例 30～31行</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 土工について、延べ面積を算出し、想定基礎深さを乗じて算出する。</p> <p>2 杭について、条件設定が難しい場合は、過去の事例の「延杭長」×「延長さ当たりの合成単価」で算出する。</p> <p>3 山留について、掘削深さ、地下水位、周辺状況を勘案のうえ、設計者との打ち合わせを経て、要、不要の判断をおこない算出する。</p> <p>4 RC躯体について、構造体の断面情報がない場合は、当該計画に近い過去の事例から、数量歩掛を抽出しアレンジして使用する。</p>					<p>【解説】</p> <p>建築面積や基礎面積を算出し、想定基礎深さを乗じて算出する。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>	

2025年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	5 工事費の構成	項 目	5.1 工事費種目	細 目	正答肢	2															
<p>問題 I-16 内訳書標準書式による種目内訳書式と種目の構成に関して、(A)～(C)に当てはまる次の組合せのうち、最も適切なものはどれか。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: left;"> <p>(A) の種目</p> <p>A 棟建築 (A 棟設備)</p> <p>B 棟建築 (B 棟設備)</p> <p>屋外施設等 (とりこわし)</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>共通費の種目</p> <p>共通仮設費(総合仮設費)</p> <p>現場仮設費(現場経費)</p> <p>(B)</p> </div> <div style="text-align: left;"> <p>特例の種目 (設計・監理費)</p> <p>共通費</p> </div> </div> <div style="margin-top: 20px;"> <p>囲障 (C)</p> <p>屋外排水 植栽</p> </div>					<p>【出典】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P449 図Ⅱ-1 2 P449 図Ⅱ-1 3 P449 図Ⅱ-1 4 P449 図Ⅱ-1</p>																
<p>【解答肢】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">(A)</th> <th style="width: 33%;">(B)</th> <th style="width: 33%;">(C)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 共通工事費</td> <td>— 直接仮設費</td> <td>— その他工作物</td> </tr> <tr> <td>2 直接工事費</td> <td>— 一般管理費等</td> <td>— 構内舗装</td> </tr> <tr> <td>3 共通工事費</td> <td>— 直接仮設費</td> <td>— 構内舗装</td> </tr> <tr> <td>4 直接工事費</td> <td>— 一般管理費等</td> <td>— その他工作物</td> </tr> </tbody> </table>					(A)	(B)	(C)	1 共通工事費	— 直接仮設費	— その他工作物	2 直接工事費	— 一般管理費等	— 構内舗装	3 共通工事費	— 直接仮設費	— 構内舗装	4 直接工事費	— 一般管理費等	— その他工作物	<p>【解説】</p> <p>P.449 図Ⅱ-1を参照。</p> <p>1. 記載は不適切。 3. 記載は不適切。 4. 記載は不適切。</p>	
(A)	(B)	(C)																			
1 共通工事費	— 直接仮設費	— その他工作物																			
2 直接工事費	— 一般管理費等	— 構内舗装																			
3 共通工事費	— 直接仮設費	— 構内舗装																			
4 直接工事費	— 一般管理費等	— その他工作物																			

2025年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	9 市場価格	項 目	9.2 価格情報の収集方法と分析	細 目	正答肢	1								
<p>問題 I-17 積算に用いる価格情報に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">1 P265 9.2</td> <td style="width: 40%; text-align: right;">26行</td> </tr> <tr> <td>2 P265 9.2</td> <td style="text-align: right;">20～25行</td> </tr> <tr> <td>3 P265 9.2</td> <td style="text-align: right;">32～33行</td> </tr> <tr> <td>4 P266 9.2</td> <td style="text-align: right;">7行</td> </tr> </table>		1 P265 9.2	26行	2 P265 9.2	20～25行	3 P265 9.2	32～33行	4 P266 9.2	7行
1 P265 9.2	26行													
2 P265 9.2	20～25行													
3 P265 9.2	32～33行													
4 P266 9.2	7行													
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 公表価格は、取引条件をより明確にすることによりそのまま使用することができる。 2 価格調査機関の価格は、施工数量や施工条件が合致すれば、見積書に直接使用することができる。 3 過去に実施した類似工事の実績にもとづいた単価データは、仕様や施工条件などが近似していれば信頼性が高い。 4 細目に対応した歩掛りに資材や労務などの単価を乗じることにより、複合単価を算定することができる。 					<p>【解説】</p> <p>公表価格は、取引条件をより明確にすることにより値引きされる場合も多い。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 記載通り。 3. 記載通り。 4. 記載通り。 									

2025年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	10 チェックおよびデータ分析	項 目	10.3.2 数量データ	細 目	正答肢	3								
<p>問題 I-18 数量データ分析、活用に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">1 P295 10.3.2</td> <td style="width: 40%; text-align: right;">36行</td> </tr> <tr> <td>2 P296 10.3.2</td> <td style="text-align: right;">9行</td> </tr> <tr> <td>3 P296 10.3.2</td> <td style="text-align: right;">18行</td> </tr> <tr> <td>4 P296 10.3.2</td> <td style="text-align: right;">8行</td> </tr> </table>		1 P295 10.3.2	36行	2 P296 10.3.2	9行	3 P296 10.3.2	18行	4 P296 10.3.2	8行
1 P295 10.3.2	36行													
2 P296 10.3.2	9行													
3 P296 10.3.2	18行													
4 P296 10.3.2	8行													
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 建設発生土処分量は、場外、場内の処分先に区分して計上する。 2 トップライトは、屋上仕上数量に含める。 3 パーティション、可動間仕切は、壁数量に含める。 4 カーテンウォールは、外部建具数量に区分して計上する。 					<p>【解説】</p> <p>壁数量にパーティション、可動間仕切は含めない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記載通り。 2. 記載通り。 4. 記載通り。 									

2025年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	14 建築積算におけるICTとBIM	項 目	14.2 BIMとは	細 目	正答肢	3								
<p>問題 I-19 BIMの特徴に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">1 P361 14.2</td> <td style="width: 40%;">22～24行</td> </tr> <tr> <td>2 P362 14.2</td> <td>1～2行</td> </tr> <tr> <td>3 P360～361 14.2</td> <td>41～42行、2～4行</td> </tr> <tr> <td>4 P365 14.4</td> <td>4～5行</td> </tr> </table>		1 P361 14.2	22～24行	2 P362 14.2	1～2行	3 P360～361 14.2	41～42行、2～4行	4 P365 14.4	4～5行
1 P361 14.2	22～24行													
2 P362 14.2	1～2行													
3 P360～361 14.2	41～42行、2～4行													
4 P365 14.4	4～5行													
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 BIMソフトウェアには、建築部材に入力された情報をまとめて一覧表として確認できる機能も標準装備されている。 2 設計変更があった場合は、切り出した図面のもととなるBIMモデルのみを修正することで、切り出した図面は全て追従して自動修正される。 3 柱や壁などの建物要素は線や図形の組み合わせによって描かれるため、線や図形1つ1つは建築的な意味（情報）をもたない。 4 積算者が様々なメリットを受けることができるようになる反面、設計者の負担が増える可能性を考慮する必要もある。 					<p>【解説】</p> <p>建物要素（BIMモデルではオブジェクトとも呼ばれる）ごとに描かれるため、1つ1つは建築的な意味（情報）を持っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記載通り。 2. 記載通り。 4. 記載通り。 									

2025年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	15 改修工事	項 目	15.2 改修工事の要因について	細 目	正答肢	2								
<p>問題 I-20 改修工事に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">1 P369 15.2.1</td> <td style="width: 40%;">15～16行</td> </tr> <tr> <td>2 P369 15.2.1</td> <td>33～34行</td> </tr> <tr> <td>3 P369 15.2.1</td> <td>18～19行</td> </tr> <tr> <td>4 P372 15.2.3</td> <td>14～15行</td> </tr> </table>		1 P369 15.2.1	15～16行	2 P369 15.2.1	33～34行	3 P369 15.2.1	18～19行	4 P372 15.2.3	14～15行
1 P369 15.2.1	15～16行													
2 P369 15.2.1	33～34行													
3 P369 15.2.1	18～19行													
4 P372 15.2.3	14～15行													
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 安全性に関しては、地震や台風・豪雨の水害などの自然災害による被害軽減を目的にするもの、外壁仕上げなどの落下を防止予防するものがある。 2 十勝沖地震を経て柱の帯筋等補強の改正された改正旧耐震設計基準で設計された1972年～1981年の建築物は、原則として補強が不要である。 3 個人情報保護法や情報セキュリティマネジメントシステムへの対応のために、入退室管理やセキュリティ強化などの改修工事も多くなってきている。 4 最近のビルでは、ICTによる情報通信機能が高度化され、さらにIoT機器も多数導入され、オフィスワークが快適に行える仕掛けが随所に盛り込まれている。 					<p>【解説】</p> <p>十勝沖地震を経て柱の帯筋等補強の改正された改正旧耐震設計基準で設計された1972年～1981年の建築物は、原則として補強が必要である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記載通り。 3. 記載通り。 4. 記載通り。 									

2025年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	6 建築積算業務の実際	項 目	6.15 設備	細 目	正答肢	2								
<p>問題 I-21 設備の数量の計測・計算に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">1 P210 6.15.1 (1)</td> <td style="width: 40%; text-align: right;">18行</td> </tr> <tr> <td>2 P210 6.15.1 (2)</td> <td style="text-align: right;">19行</td> </tr> <tr> <td>3 P210 6.15.1 (3)</td> <td style="text-align: right;">20行</td> </tr> <tr> <td>4 P210 6.15.1 (4)</td> <td style="text-align: right;">22行</td> </tr> </table>		1 P210 6.15.1 (1)	18行	2 P210 6.15.1 (2)	19行	3 P210 6.15.1 (3)	20行	4 P210 6.15.1 (4)	22行
1 P210 6.15.1 (1)	18行													
2 P210 6.15.1 (2)	19行													
3 P210 6.15.1 (3)	20行													
4 P210 6.15.1 (4)	22行													
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 数量は、内訳書による種目別、科目別、中科目別、細目別に区分して計測する。 2 数量は、設計数量を基本とするが、根切り、埋戻しなどは所要数量とする。 3 数量は、設計図書に表示された寸法や縮尺から計測・計算をおこなうが、スケールなどで読み取り計測して算出することができる。 4 計測・計算する数量は長さ、面積、体積及び質量などとし、その単位はm、㎡、m³、kgおよびtとする。 					<p>【解説】</p> <p>根切り、埋戻しなどは計画数量とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記載通り。 3. 記載通り。 4. 記載通り。 									

2025年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	6 建築積算業務の実際	項 目	6.15 設備	細 目	正答肢	3
<p>問題 I-22 設備工事の工事種目に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P.217 6.15.2 (2) 11～16行 2 P.217 6.15.2 (2) 11～16行 3 P.217 6.15.2 (2) 11～16行 4 P.217 6.15.2 (2) 11～16行</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 電気設備工事に昇降機設備工事は含まれない。 2 電気設備工事に空気調和設備工事は含まれない。 3 機械設備工事に機械式駐車設備工事は含まれる。 4 機械設備工事に給排水衛生設備工事は含まれる。</p>					<p>【解説】</p> <p>機械設備工事に機械式駐車設備工事は含まれない。</p> <p>1. 記載通り。 2. 記載通り。 4. 記載通り。</p>	

2025年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	6 建築積算業務の実際	項 目	6.17 値入業務	細 目	正答肢	1
<p>問題 I-23 専門工事（工事一式を責任施工で請負う専門工事会社の事）の対象となる工事のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P233 6.17.4 (2) ⑧ 2 P233 6.17.4 (2) ⑧ 11行 3 P233 6.17.4 (2) ⑧ 6行 4 P233 6.17.4 (2) ⑧ 7行</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 電気設備工事 — 電灯コンセント設備</p> <p>2 電気設備工事 — 自家発電設備</p> <p>3 機械設備工事 — 消火設備</p> <p>4 機械設備工事 — ガス設備</p>					<p>【解説】</p> <p>電灯コンセント設備は専門工事ではない。</p> <p>2. 記載通り。 メーカー見積依頼の対象で材工の見積が必要になる。</p> <p>3. 記載通り。 メーカー見積依頼の対象で材工の見積が必要になる。</p> <p>4. 記載通り。 メーカー見積依頼の対象で材工の見積が必要になる。</p>	

2025年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	12 LCC（ライフサイクルコスト）	項 目	12.1 LCCとは	細 目	正答肢	2								
<p>問題 I-24 LCC（ライフサイクルコスト）に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 80%;">1 P342 12.1</td> <td style="width: 20%; text-align: right;">21行</td> </tr> <tr> <td>2 P342 12.1</td> <td style="text-align: right;">22行</td> </tr> <tr> <td>3 P342 12.1</td> <td style="text-align: right;">23行</td> </tr> <tr> <td>4 P342 12.1</td> <td style="text-align: right;">23行</td> </tr> </table>		1 P342 12.1	21行	2 P342 12.1	22行	3 P342 12.1	23行	4 P342 12.1	23行
1 P342 12.1	21行													
2 P342 12.1	22行													
3 P342 12.1	23行													
4 P342 12.1	23行													
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 初期建設費には、企画・設計コストが含まれる。 2 初期建設費には、水、電気、ガス、オイルなどの運用コストが含まれる。 3 維持運用費には、保全コストが含まれる。 4 維持運用費には、修繕コストが含まれる。 					<p>【解説】</p> <p>水、電気、ガス、オイルなどの運用コストは含まれない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記載通り。 3. 記載通り。 4. 記載通り。 									

2025年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	13 VE (バリューエンジニアリング)	項 目	13.3 VEの手法	細 目	正答肢	3								
<p>問題 I-25 VE (バリューエンジニアリング) における価値向上の考え方について次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 70%;">1 P353 (3)</td> <td style="width: 30%;">3～4行</td> </tr> <tr> <td>2 P353 (3)</td> <td>5～6行</td> </tr> <tr> <td>3 P353 (3)</td> <td>7～8行</td> </tr> <tr> <td>4 P353 (3)</td> <td>9～10行</td> </tr> </table>		1 P353 (3)	3～4行	2 P353 (3)	5～6行	3 P353 (3)	7～8行	4 P353 (3)	9～10行
1 P353 (3)	3～4行													
2 P353 (3)	5～6行													
3 P353 (3)	7～8行													
4 P353 (3)	9～10行													
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 同じ機能のものを安いコストで手に入れる。 2 同じコストで、より優れた機能を手に入れる。 3 機能を下げ、より安いコストで手に入れる。 4 少々コストは上がるが、それ以上に優れた機能を手に入れる。 					<p>【解説】</p> <p>「より優れた機能を果たすものを、より安いコストで手に入れる」ことである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記載通り。 2. 記載通り。 4. 記載通り。 									

2025年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

章 目	17 環境計画とコスト管理	項 目	17.3 建築物における総合環境性能評価	細 目	正答肢	4
<p>問題 I-26</p> <p>ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】</p> <p>新☆建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P402 17.3.3 3～5行</p> <p>2 P402 17.3.3 3～5行</p> <p>3 P402 17.3.3 3～5行</p> <p>4 P402 17.3.3 3～5行</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 快適な室内環境を実現せずに、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支を半分にすることを目指した建物である。</p> <p>2 快適な室内環境を実現せずに、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物である。</p> <p>3 快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支を半分にすることを目指した建物である。</p> <p>4 快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物である。</p>					<p>【解説】</p> <p>4. 記載通り。</p> <p>1. 快適な室内環境を実現しながらであり、半分ではなくゼロである。</p> <p>2. 快適な室内環境を実現しながらである。</p> <p>3. 半分ではなくゼロである。</p>	

2025年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算に理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第1編 総則	細 目	正答肢	3
<p>問題 Ⅱ- 1 建築数量積算基準に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【 出 典 】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P414 第1編-6 2 P414 第1編-7 3 P414 第1編-8 4 P414 第1編-9</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 数量に対応する単価は、「内訳書標準書式」の工種別方式及び部分別方式における単価及び複合単価等とする。</p> <p>2 建築数量積算基準に規定した計測・計算の方法に準ずる略算法を用いるときは、適切な方法による。</p> <p>3 建築数量積算基準に規定した計測・計算の方法に統計値を用いることはできない。</p> <p>4 建築数量積算基準では積算上、仮設、土工・地業、躯体、仕上、屋外施設等、改修、発生材処理に分けて定める。</p>					<p>【 解 説 】</p> <p>計測・計算の方法に統計値を用いるときは、適切な統計値による。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>	

2025年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算に理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第1編 総則	細 目	正答肢	4
<p>問題 Ⅱ- 2 共通仮設に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【 出 典 】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P415 第3節 (1) 2 P415 第3節 (2) 3 P415 第3節 (3) 4 P415 第3節 (4)</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 仮囲いとは、作業現場周辺を保安等の理由から区画するものをいう。</p> <p>2 工事用道路等とは、構内の軟弱地盤、重機の走行、長期間の工事等により必要に応じて構内に設置する工事用の道路等をいう。</p> <p>3 安全管理・合図等の要員とは、工事現場出入口等に配置する交通誘導警備員等のことをいう。</p> <p>4 揚重機械器具とは、工事に必要な資材等の荷揚げ及び荷卸しを行う掘削機械をいう。</p>					<p>【 解 説 】</p> <p>揚重機械器具とは、工事に必要な資材等の荷揚げ及び荷卸しを行うクレーン及びリフト類をいう。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p>	

2025年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算に理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第1編 総則	細 目	正答肢	3
<p>問題 Ⅱ- 3 土工に関する次の計測・計算の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【 出 典 】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P418 2節2 (1) 2 P418 2節2 (2) 3 P418 2節2 (6) 4 P418 2節2 (7)</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 整地とは、設計地盤又は現状地盤に沿う敷地の地均しをいう。</p> <p>2 根切りとは、基礎、地下構築物等を施工するための土の掘削をいう。</p> <p>3 土間、犬走り等のすきとりはないものとする。</p> <p>4 杭の余長等による根切り量の減少はないものとする。</p>					<p>【 解 説 】</p> <p>土間、犬走り等のすきとりは根切りに準ずる</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>	

2025年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算に理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第4編 躯体	細 目	正答肢	4								
<p>問題 Ⅱ- 4 躯体の計測・計算の区分に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【 出 典 】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 80%;">1 P420 1章 2節 (1) 1)</td> <td style="width: 20%; text-align: right;">38行</td> </tr> <tr> <td>2 P421 1章 2節 (3) 1)</td> <td style="text-align: right;">9行</td> </tr> <tr> <td>3 P421 1章 2節 (4)</td> <td style="text-align: right;">14行</td> </tr> <tr> <td>4 P421 1章 2節 (6)</td> <td style="text-align: right;">21行</td> </tr> </table>		1 P420 1章 2節 (1) 1)	38行	2 P421 1章 2節 (3) 1)	9行	3 P421 1章 2節 (4)	14行	4 P421 1章 2節 (6)	21行
1 P420 1章 2節 (1) 1)	38行													
2 P421 1章 2節 (3) 1)	9行													
3 P421 1章 2節 (4)	14行													
4 P421 1章 2節 (6)	21行													
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 独立基礎とは、基礎底面から柱又は基礎梁との接続面までの部分をいう。 2 大梁とは、柱に接する横架材の内法部分をいう。 3 床板とは、柱、梁等に接する水平材の内法部分をいう。 4 階段とは、段スラブと手すり壁を言う。 					<p>【 解 説 】</p> <p>階段とは、段スラブ及びこれに付随する部分をいい、踊場、手すり壁等を含む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記載通り。 2. 記載通り。 3. 記載通り。 									

2025年度建築積算士学科試験問題

II 数量積算に理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第4編 躯体	細 目	正答肢	2
<p>問題 II- 5 コンクリートの計測・計算に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【 出 典 】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P422 2章 2節 1 (1) 1) 3行 2 P422 2章 2節 1 (1) 2) 5行 3 P422 2章 2節 1 (1) 3) 6行 4 P422 2章 2節 1 (1) 4) 9行</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 コンクリートの断面寸法は、小数点以下第3位まで計測・計算する。</p> <p>2 鉄筋及び小口径管類によるコンクリートの欠除をする。</p> <p>3 鉄骨によるコンクリートの欠除は、計測・計算した鉄骨の設計数量について7.85 tを1.0m³として換算した体積とする。</p> <p>4 開口部の内法の見付面積が1か所当たり0.5m²以下の場合は、原則として開口部によるコンクリートの欠除はないものとする。</p>					<p>【 解 説 】</p> <p>鉄筋及び小口径管類によるコンクリートの欠除はないものとする。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>	

2025年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算に理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第4編 躯体	細 目	正答肢	2
<p>問題 II-6 型枠の計測・計算に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P422 2章 2節 1 (2) 3) 18行 2 P422 2章 2節 1 (2) 4) 21行 3 P422 2章 2節 1 (2) 5) 23行 4 P422 2章 2節 1 (2) 6) 24行</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 開口部の内法の見付面積が1か所当たり0.5㎡以下の場合は、原則として型枠の欠除はないものとする。</p> <p>2 斜面の勾配が2/10を超える場合は、その部分の上面型枠又はコンクリートの上面の処理を計測・計算の対象とする。</p> <p>3 階段の踏面及び階の中間にある壁付きの梁の上面は、その部分の上面型枠を計測・計算の対象とする。</p> <p>4 型枠は、「さきの部分」の接続部の型枠を差し引く。これ以外の接続部の面積が1.0㎡以下の箇所の型枠の欠除はないものとする。</p>					<p>【解説】</p> <p>斜面の勾配が3/10を超える場合は、その部分の上面型枠又はコンクリートの上面の処理を計測・計算の対象とする。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>	

2025年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算に理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第4編 躯体	細 目	正答肢	3								
<p>問題 Ⅱ- 7 鉄筋の計測・計算に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 80%;">1 P424 3章 2節 1 2)</td> <td style="width: 20%; text-align: right;">16行</td> </tr> <tr> <td>2 P424 3章 2節 1 3)</td> <td style="text-align: right;">17行</td> </tr> <tr> <td>3 P424 3章 2節 1 7)</td> <td style="text-align: right;">26行</td> </tr> <tr> <td>4 P424 3章 2節 1 9)</td> <td style="text-align: right;">31行</td> </tr> </table>		1 P424 3章 2節 1 2)	16行	2 P424 3章 2節 1 3)	17行	3 P424 3章 2節 1 7)	26行	4 P424 3章 2節 1 9)	31行
1 P424 3章 2節 1 2)	16行													
2 P424 3章 2節 1 3)	17行													
3 P424 3章 2節 1 7)	26行													
4 P424 3章 2節 1 9)	31行													
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 フープ、スタラップの長さは、それぞれ柱、基礎梁及び梁及び壁梁のコンクリートの断面の設計寸法による周長を鉄筋の長さとし、フックはないものとする。 2 幅止筋の長さは、基礎梁、梁、壁梁、壁のコンクリートの設計幅又は厚さとし、フックはないものとする。 3 鉄筋の割付本数が設計図書に記載されていない場合は、その部分の長さを鉄筋の間隔で除し、小数点以下第1位を切り上げた整数とする。 4 鉄筋について、その所要数量を求めるときは、その設計数量の4%の割増を標準とする。 					<p>【解説】</p> <p>鉄筋の割付本数が設計図書に記載されていない場合は、その部分の長さを鉄筋の間隔で除し、小数点以下第1位を切り上げた整数に1を加える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記載通り。 2. 記載通り。 4. 記載通り。 									

2025年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算に理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第4編 躯体	細 目	正答肢	2								
<p>問題 Ⅱ- 8 木躯体(軸組工法)の計測・計算に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 80%;">1 P432 5章 2節 1 1)</td> <td style="width: 20%; text-align: right;">23行</td> </tr> <tr> <td>2 P432 5章 2節 1 3)</td> <td style="text-align: right;">31行</td> </tr> <tr> <td>3 P432 5章 2節 1 6)</td> <td style="text-align: right;">10行</td> </tr> <tr> <td>4 P433 5章 2節 1 10)</td> <td style="text-align: right;">15行</td> </tr> </table>		1 P432 5章 2節 1 1)	23行	2 P432 5章 2節 1 3)	31行	3 P432 5章 2節 1 6)	10行	4 P433 5章 2節 1 10)	15行
1 P432 5章 2節 1 1)	23行													
2 P432 5章 2節 1 3)	31行													
3 P432 5章 2節 1 6)	10行													
4 P433 5章 2節 1 10)	15行													
<p>【解答肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 部材長さは、接続する部材相互の内法長さに、仕口（のみ込み）及び継手長さ（重なり長さ）を加えた長さとする。 2 仕口及び継手長さが設計図書に記載されていない場合は、仕口は片側あたり0.5mとする。 3 開口部による構造用面材の欠除は、建具類等開口部の内法寸法による、1か所当たり内法面積0.5㎡以下の開口部による構造用面材の欠除は原則としてないものとする。 4 集成材の数量は、製材の数量の求めに準ずる。 					<p>【解説】</p> <p>ただし、仕口及び継手長さが設計図書に記載されていない場合は、仕口は片側あたり0.05mとし、継手長さは 0.15mを標準とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記載通り。 3. 記載通り。 4. 記載通り。 									

2025年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第4編 躯体	細 目	正答肢	1
<p>問題 Ⅱ- 9 鉄骨の区分に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【 出 典 】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P427 4章1節 (2) 3) 40行 2 P427 4章1節 (1) 4) 34行 3 P428 4章1節 (3) 2) 3行 4 P428 4章1節 (1) 2) 7行</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 小梁が取付く大梁のガセットプレート及びスチフナーは大梁の部分として区分する。</p> <p>2 間柱とガセットプレート等の梁との接合部材は、間柱に含める。</p> <p>3 柱又は梁に接合するブレースの接合部材は、原則として接合するブレースの部分に含める。</p> <p>4 鉄骨階段と他の部分との接合部材は階段の部分として区分する。</p>					<p>【 解 説 】</p> <p>小梁が取付く大梁のガセットプレート及びスチフナーは小梁の部分として区分する。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>	

2025年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第5編 仕上	細 目	正答肢	4
<p>問題 II-10 間仕切下地の計測・計算に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P435 1章 2節 1 2) 2 P435 1章 2節 1 3) 3 P435 1章 2節 1 5) 4 P435 1章 2節 1 6)</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 数量は、原則として躯体又は準躯体の設計寸法による面積から、建具類の内法寸法等設計寸法による開口部の面積を差し引いた面積とする。</p> <p>2 開口部のための補強は、設計寸法による開口部の箇所数又は補強部材の長さを数量とする。</p> <p>3 組立、接合又は躯体への取付のための釘、金物類、モルタル、接着材等は間仕切下地の構成部材とし、原則として計測の対象としない。</p> <p>4 木製間仕切下地を材料と施工手間に分離する場合の材料価格に対応する数量は、設計数量とする。</p>					<p>【解説】</p> <p>材料と施工手間に分離する場合の材料価格に対応する数量は、所要数量とする。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p>	

2025年度建築積算士学科試験問題

II 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第5編 仕上	細 目	正答肢	1
<p>問題 II-11 外部仕上の区分に関する次の組合せのうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P436 2章 1節 2 2) 2 P436 2章 1節 2 2) 3 P436 2章 1節 2 3) 4 P436 2章 1節 2 4) P157 6.8.1 (4) 24行</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 屋根・外部床 － パラペット笠木</p> <p>2 外壁 － 開口部周囲の見込</p> <p>3 外部開口部 － 建具の沓摺</p> <p>4 外部天井 － 階段の段裏</p>					<p>【解説】</p> <p>パラペット笠木、手すり笠木等は外壁に属する。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>	

2025年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第5編 仕上	細 目	正答肢	3
<p>問題 Ⅱ-12 防水層の計測・計算に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P438 2章 2節 3 (3) 1) 2 P439 2章 2節 3 (3) 2) 3 P439 2章 2節 3 (3) 3) 4 P439 2章 2節 3 (3) 4)</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 原則として躯体又は準躯体の設計寸法による面積とする。</p> <p>2 立上り等の数量は、その立上り寸法と設計寸法に基づく長さ又は面積とする。</p> <p>3 衛生器具、配管等による欠除が0.5㎡を超えるものがある時は、その面積を差し引いた面積とする。</p> <p>4 シート防水等の重ね代は計測の対象としない。</p>					<p>【解説】</p> <p>衛生器具、配管等による各部分の防水層等の欠除並びにこれらの周囲の防水等の処理は計測の対象としない。※面積にかかわらず計測の対象外</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>	

2025年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第5編 仕上	細 目	正答肢	2
<p>問題 II-13 金属材の計測・計算に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P440 2章 2節 3 (7) 2) 2 P440 2章 2節 3 (7) 4) 3 P440 2章 2節 3 (7) 5) 4 P440 2章 2節 3 (7) 7)</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 手すり、タラップ、ルーフドレン、たて樋、養生管等の数量は、原則として設計寸法による長さ又は箇所数による。</p> <p>2 屋根の主仕上は、原則として軒先等までの設計寸法による面積とし、開口部による欠除はないものとする。</p> <p>3 天井の骨組下地は、躯体からの「ふところ」寸法及び野縁等の仕様により区分し、その主仕上の数量による。</p> <p>4 メタルラス、ワイヤラス等の計測・計算は、原則としてその主仕上の数量による。</p>					<p>【解説】</p> <p>軒先等までの設計寸法による面積から、天窗等の内法寸法による開口部の面積を差し引いた葺上げ面積を数量とする。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>	

2025年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第5編 仕上	細 目	正答肢	1
<p>問題 Ⅱ-14 建具等の計測・計算に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P442 2章 2節 3 (15) 3) 2 P439 2章 2節 3 (3) 5) 3 P441 2章 2節 3 (10) 2) P441 2章 2節 3 (12) 2) 4 P441 2章 2節 3 (10) 3)</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 カーテンウォールの耐火パネルは、原則として設計寸法に基づく面積を数量とする。</p> <p>2 建具と水切間のシーリングは、原則として計測の対象としない。</p> <p>3 塗装材による表面処理についての計測・計算は、適切な統計値又は係数値によることができる。</p> <p>4 附合物のうち特殊な建具金物等についての計測・計算は、その規格、仕様等ごとの組数又は箇所数を数量とする。</p>					<p>【解説】</p> <p>耐火パネルは仕上の構成部材とし、原則として計測の対象としない。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>	

2025年度建築積算士学科試験問題

II 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第6編 屋外施設等	細 目	正答肢	2
<p>問題 II-15 屋外施設の区分と項目の次の組合せのうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【出典】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P442 1章 2節 2 (2) 2 P443 3章 1節 2 (2) 3 P443 3章 1節 2 (1) 4 P444 4章 2節 1 (5)</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 囲障 — 植え込み土留め</p> <p>2 構内舗装 — L型側溝</p> <p>3 屋外排水 — 排水柵</p> <p>4 植栽 — 樹木の支柱</p>					<p>【解説】</p> <p>側溝は屋外排水に区分する。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>3. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>	

2025年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第7編 改修	細 目	正答肢	3
<p>問題 Ⅱ-16 改修工事における墨出しの計測・計算対象として次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。</p>					<p>【 出 典 】 新☆建築積算士ガイドブック</p> <p>1 P445 1章 2節 2 (1) 1) 2 P445 1章 2節 2 (1) 2) 3 P445 1章 2節 2 (1) 3) 4 P445 1章 2節 2 (1) 4)</p>	
<p>【解答肢】</p> <p>1 防水改修で、水勾配の調整を必要とする場合。</p> <p>2 外壁改修で、外壁モルタル塗り、外壁タイル張り等を撤去し、新たに仕上をする場合。</p> <p>3 建具改修で、建具を撤去し、既存と同じ大きさの建具を新設する場合。</p> <p>4 内装改修で、床、壁及び天井仕上を下地から撤去し、新設仕上をする場合。</p>					<p>【 解 説 】</p> <p>既存の壁に開口を設けて新規に建具を取り付ける場合のみ計測・計算の対象とする。</p> <p>1. 記載通り。</p> <p>2. 記載通り。</p> <p>4. 記載通り。</p>	

2025年度建築積算士学科試験問題

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識

木

章 目	建築数量積算基準	項 目	第3編 土工・地業	細 目		正答肢	4
-----	----------	-----	-----------	-----	--	-----	----------

問題 II-17

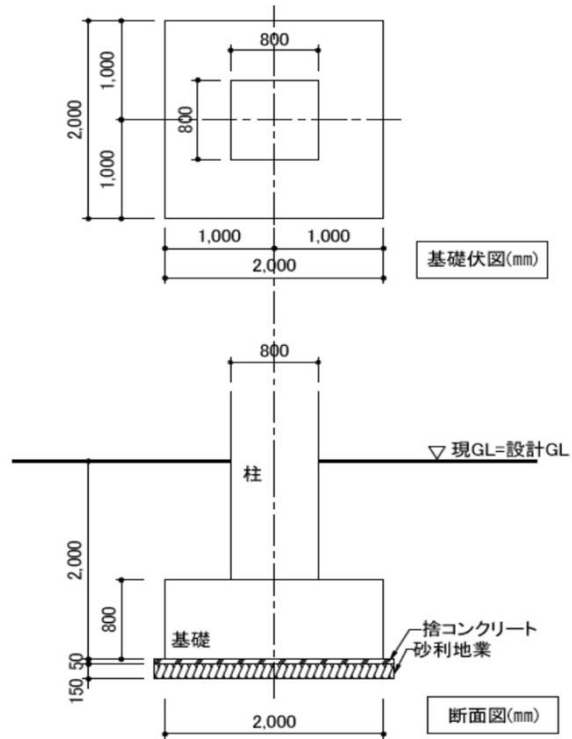
下図の独立基礎の根切数量として次のうち、**最も適切なもの**はどれか。

【解答肢】

(m³)

- 1 18.00
- 2 19.80
- 3 25.92
- 4 29.47

【 図 】



【出典】

新☆建築積算士ガイドブック

【解説】

H1.5以上H5.0未満の基準で計算

$$1.0.3 \times 2.20 / 2 + 0.5 = 0.83 \text{ 余幅}$$

$$(2.0 + 0.83 \times 2) \times (2.0 + 0.83 \times 2) \times 2.20 = 29.47 \text{ m}^3$$

2025年度建築積算士学科試験問題

II 数量積算に理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第4編 躯体	細 目		正答肢	2
-----	----------	-----	--------	-----	--	-----	---

問題 II-18

下図の床板 (S) の、コンクリート数量 (m³) として、**最も適切なもの**はどれか。

【解答肢】

- | | |
|---|-------------------|
| | (m ³) |
| 1 | 4.79 |
| 2 | 4.86 |
| 3 | 4.94 |
| 4 | 4.97 |

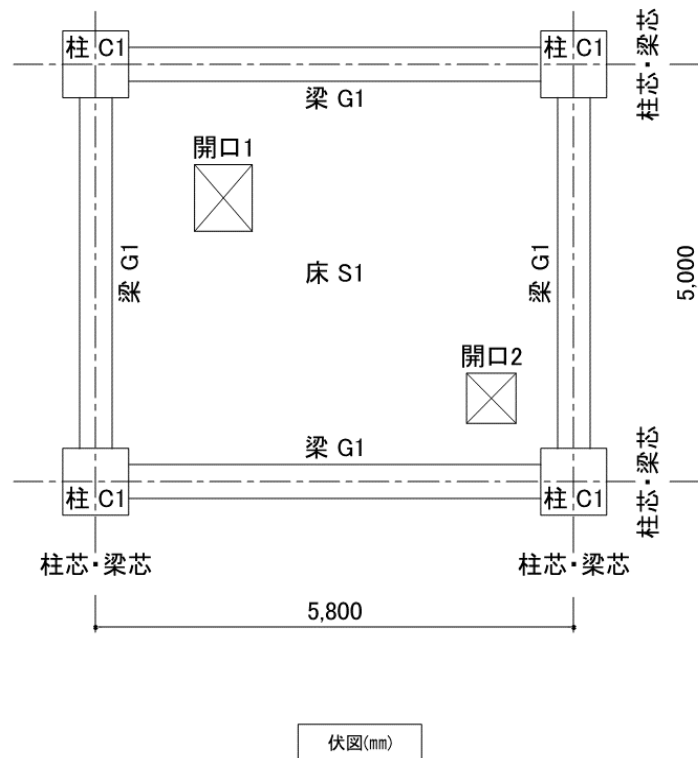
【部材リスト】(単位mm)

	柱	梁	床
符号	C1	G1	S1
寸法	800×800	W400×H700	厚200

【開口部リスト】(単位mm)

	寸法
開口1	700×800
開口2	600×600

【解答肢】



【出典】

新☆建築積算士ガイドブック

- 第4編 躯体
 第2章 コンクリート部材
 第2節 コンクリート部材の計測計算
1. 通則 (1) 4)
 2. 各部分の計測・計算 (4) 1)

【解説】

コンクリートの数量は、設計寸法による板厚と梁等に接する内法面積とによる体積とし、柱との取り合い部分の床板の欠除はないものとする。
 開口部については、1通則(1)4)による。

2. が最も適切

床板X方向長さ = $5.80 - 0.40/2 \times 2 = 5.40$

床板Y方向長さ = $5.00 - 0.40/2 \times 2 = 4.60$

S1全体 $5.40 \times 4.60 \times 0.20 = 4.97$

開口1 $\blacktriangle 0.70 \times 0.80 \times 0.20 = \blacktriangle 0.11$ 計 4.86 m^3

注) 開口2は、 0.50 m^2 以下なので控除しない。

2025年度建築積算士学科試験問題

II 数量積算に理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第4編 躯体	細 目		正答肢	3
-----	----------	-----	--------	-----	--	-----	----------

問題 II-19

下図の壁(W20)の、型枠数量(m²)として、**最も適切なもの**はどれか。

【解答肢】

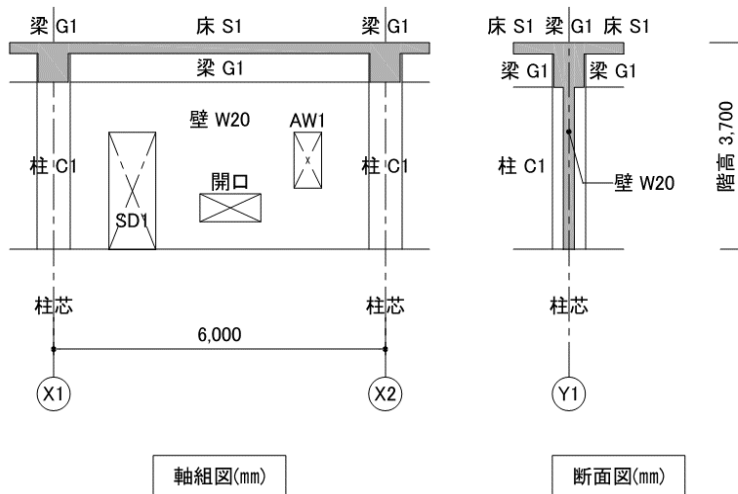
- (m²)
- 1 32.40
 - 2 28.83
 - 3 27.73
 - 4 26.73

【部材リスト】(単位mm)

符号	柱	梁	床	壁
	C1	G1	S1	W20
寸法	600×600	W550×H700	厚 200	厚 200

【部材リスト】(単位mm)

	AW1	SD1	開口
寸法	W500×H1,000	W850×H2,100	W1,100×H500



【出典】

新☆建築積算士ガイドブック

- 第4編 躯体
 第2章 コンクリート部材
 第2節 コンクリート部材の計測計算
- 1. 通則 (2) 3)
 - 2. 各部位の計測・計算 (5) 2)

【解説】

1) 型枠の数量は、コンクリートの側面及び壁梁底面の面積とする。接続部については、1 通則 (2) 2) により、開口部については、1 通則 (2) 3) による。

4) 窓、出入口等の開口部の内法の見付面積が1か所当たり0.5m²以下の場合、原則として型枠の欠除はないものとする。また、開口部の見込部分の型枠は計測の対象としない。

3. が最も適切

壁長さ 6.00 - 0.60 / 2 × 2 = 5.40m
 壁高さ 3.70 - 0.70 = 3.00m
 全体 5.40 × 3.00 × 2 = 32.40
 SD1 ▲0.85 × 2.10 × 2 = ▲3.57
 開口 ▲1.10 × 0.50 × 2 = ▲1.10 計 27.73 m²

注) AW1は、0.50m²以下なので控除しない。

2025年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算に理解に関する知識

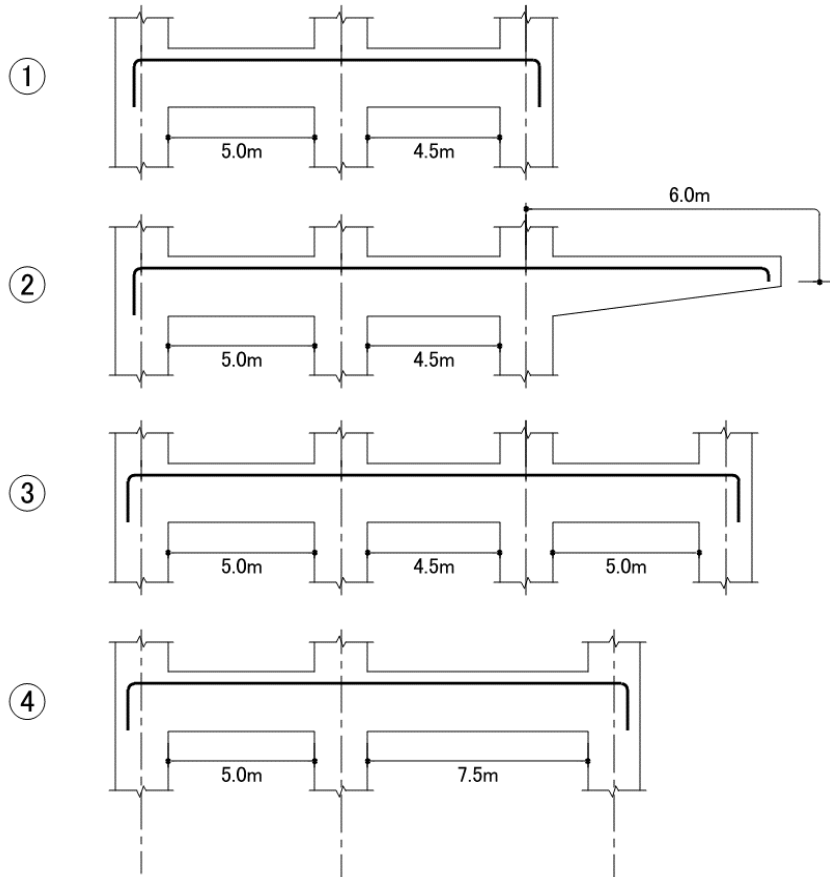
章 目	建築数量積算基準	項 目	第4編 躯体	細 目		正答肢	2
-----	----------	-----	--------	-----	--	-----	---

問題 Ⅱ-20

下図の①～④における梁の全長にわたる主筋（D22）の継手の数量（か所）のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

【解答肢】

- 1 ① - 1.5か所
- 2 ② - 2.5か所
- 3 ③ - 2.5か所
- 4 ④ - 2.0か所



【解答肢】

【出典】

新☆建築積算士ガイドブック

- 第4編 躯体
- 第3章 鉄筋
- 第2節 鉄筋の計測計算
- 2. 各部分の計測・計算
- (3) 梁 2)

【解説】

P. 425 連続する梁の全長にわたる主筋の継手については、1通則4)の規定にかかわらず、梁の長さが、5.0m未満は0.5か所、5.0m以上10.0m未満は1か所、10.0m以上は2か所あるものとする。ただし、単独梁及び片持ち梁の主筋の継手は、1通則4)によるものとする。

2. が最も不適切

5.0m梁は、5.0m以上10.0m未満は1か所となり、4.5m梁は、5.0m未満は0.5か所となり、片持ち梁は、主筋はD22により、7.0mまでは継手を設けないこととなりますので、 $1+0.5+0=1.5$ か所になります。

2025年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第4編 躯体	細 目		正答肢	3
-----	----------	-----	--------	-----	--	-----	----------

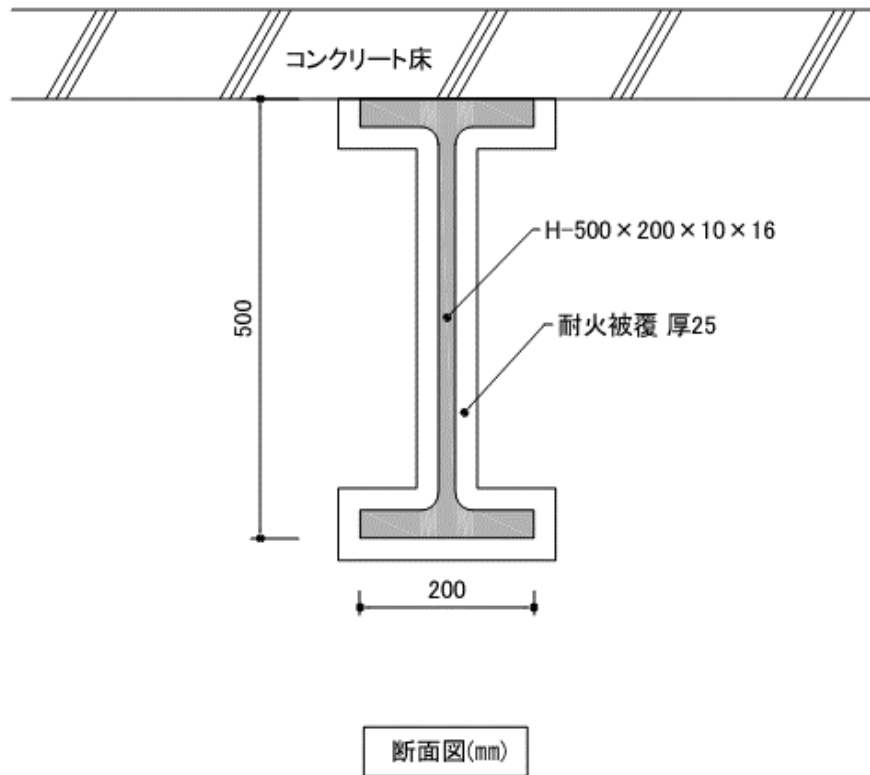
問題 Ⅱ-21

下図のH形鋼梁の10m当たりの耐火被覆面積 (㎡) として次のうち、**最も適切なもの**はどれか。

【解答肢】

- (㎡)
- 1 17.30
 - 2 16.80
 - 3 16.30
 - 4 15.80

【 図 】



【 出 典 】

新☆建築積算士ガイドブック

第4編 躯体

第4章 鉄骨

第4節 耐火被覆等の計測・計算 2)

【 解 説 】

P. 429

耐火被覆の数量は、原則として耐火被覆材の厚さの中心寸法により計測・計算した面積とする。

3. が最も適切

$$0.50 \times 2 + 0.20 \times 3 + 0.025 \times 2 - 0.01 \times 2 = 1.63 \text{ m}^2/\text{m}$$

$$10\text{m 当り} = 1.63 \times 10\text{m} = 16.30 \text{ m}^2$$

2025年度建築積算士学科試験問題

II 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第5編 仕上	細 目		正答肢	4
-----	----------	-----	--------	-----	--	-----	----------

問題 II-22

下図の範囲の外壁打放し数量 (㎡) と腰壁モルタル数量 (㎡) の次の組合せのうち、**最も適切なもの**はどれか。
腰壁は直接土に接しているものとする。

【解答肢】

	外壁打放し(㎡)		腰壁モルタル(㎡)
1	16.50	—	3.00
2	16.50	—	3.60
3	17.00	—	3.00
4	17.00	—	3.60

【出典】

新☆建築積算士ガイドブック

第2章 仕上

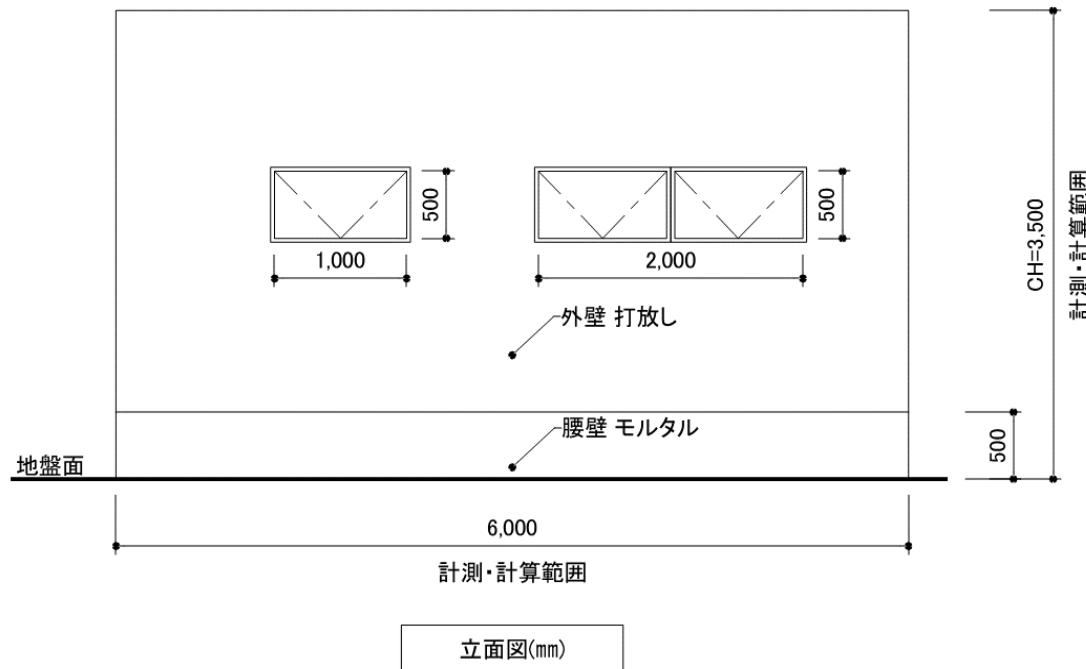
第2節 仕上の計測・計算

2 主仕上の計測・計算

(1) 計測・計算する寸法

P162 6.8.3 (2) ①

【図】



【解説】

開口部の面積が1か所当たり0.5㎡以下のときは、開口部による主仕上の欠除は原則としてないものとする。

P162

根回りが直接土に接する場合は、地盤線の乱れによって仕上が見苦しくならないように0.1mのみ込みを加える。

外壁打放し

$$6.00 \times 3.00 - 2.00 \times 0.50 = 17.00 \text{ m}^2$$

腰壁モルタル

$$6.00 \times (0.50 + 0.10) = 3.60 \text{ m}^2$$

2025年度建築積算士学科試験問題

Ⅱ 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第5編 仕上	細 目		正答肢	4
-----	----------	-----	--------	-----	--	-----	----------

問題 Ⅱ-23

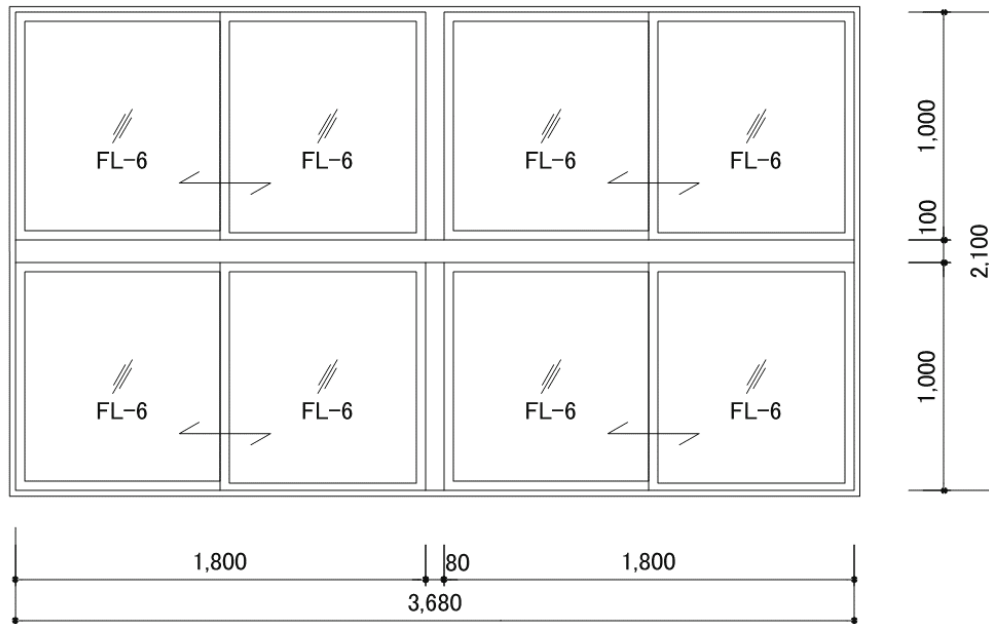
下図の窓のガラス(FL-6)数量 (㎡) の次のうち、**最も適切なもの**はどれか。

【解答肢】

ガラス(㎡)

- 1 7.20
- 2 7.36
- 3 7.56
- 4 7.73

【 図 】



建具姿図(mm)

【 出 典 】

新☆建築積算士ガイドブック

第2章 仕上

第2節 仕上の計測・計算

3 材種による特則

(11) ガラス材

(12) 塗装・吹付材

【 解 説 】

全面がガラスである建具類のガラスの数量は、材質、規格等ごとに、原則として建具類の内法寸法による面積を数量とする。ただし、かまち、方立、棧等の見付幅が0.1mを超えるものがあるときは、その面積を差し引いた面積とする。建具類、鉄骨等の塗装材による表面処理についての計測・計算は、適切な統計値又は係数値によることができる。

ガラスは、方立、棧等の見付幅が0.1mを超えないので差し引かない。

$$3.68 \times 2.10 = 7.73\text{㎡}$$

2025年度建築積算士学科試験問題

II 数量積算の理解に関する知識

章 目	建築数量積算基準	項 目	第6編 屋外施設等	細 目		正答肢	4
-----	----------	-----	-----------	-----	--	-----	----------

問題 II-24

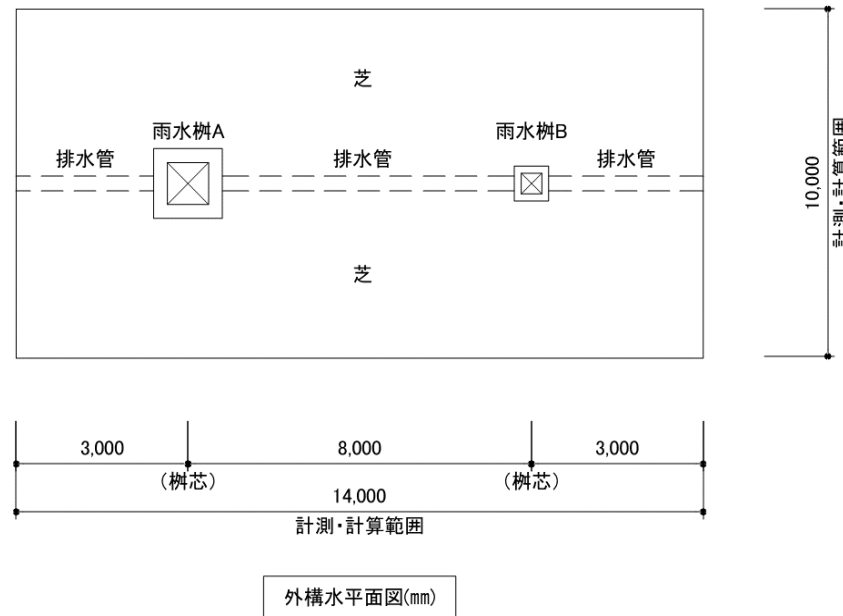
下図の範囲の芝張りの数量 (m²) と排水管の数量 (m) の次の組合せのうち、**最も適切なもの**はどれか。排水管は地中埋設、雨水樹の壁上端は芝面と同一高さとする。

【解答肢】

	芝張り (m ²)		排水管 (m)
1	138.70	—	12.40
2	138.70	—	13.00
3	139.19	—	12.40
4	139.19	—	13.00

【 図 】

雨水樹A: 内法寸法 600×600 壁厚150
 雨水樹B: 内法寸法 400×400 壁厚150
 排水 管: 硬質塩化ビニル管 Φ200



【 出 典 】

新☆建築積算士ガイドブック

第4章 植栽

第2節 植栽の計測・計算

1 各部の計測・計算

(3) 芝類

第3章 屋外排水

第1節 屋外排水の計測・計算

2 各部の計測・計算

(3) 排水管

【 解 説 】

芝類の数量は、種類及び工法ごとに、面積を計測・計算する。なお、排水樹等の面積が1か所当たり0.5m²以下ときは、その欠除は原則としてないものとする。

排水管の数量は、材種及び呼び径ごとに、接続する樹の内法寸法を減じた長さを計測・計算する。

芝張り

$$14.00 \times 10.00 - (0.60 + 0.15 \times 2) \times (0.60 + 0.15 \times 2) = 139.19 \text{ m}^2$$

排水管

$$14.00 - 0.60 - 0.40 = 13.00 \text{ m}$$